

京都老舗の会 NEWS LETTER

Vol.21



京都老舗の会
Kyoto Company Century Club

パネルディスカッションを開催
- 明治150年 激動の時代を乗り越えて -

京都老舗の会では、毎年経営の事例を学ぶ勉強会（パネルディスカッション）を開催しています。

今年度は、平成30年1月30日（火）にANAクラウンプラザホテル京都において開催された京都老舗の会総会に併せてパネルディスカッションを実施。明治時代という激動期において様々な苦難を乗り越えられた老舗の経営者である、堀智行氏（堀金箔粉(株) 代表取締役社長）、宮崎真里子氏（(株)宮崎 代表取締役）をパネリストにお招きして、明治から現代までの150年間の変化への対応、そしてグローバル化やIT化など新たな時代への対応等について意見交換を行いました。



堀金箔粉株式会社

堀 智行 (Hori Tomoyuki)

1711年（正徳元年）に創業以来、金箔粉の製造販売を生業とし、300年以上の歴史を持つ堀金箔粉(株)の代表取締役社長。

金箔を用いる京仏具、西陣織、京友禅などをはじめとする伝統産業・工芸が高度に集積する京都において、様々なユーザーと長期にわたり商取引を行い、信頼関係を構築してきた。

現在では、特殊印刷や食品、美容など様々な分野でも展開し、金属箔・粉の新たな可能性を追求するなど、「伝統とは革新の連続なり」という言葉で継承されているように、現状を甘んじることなく、次の時代に備えること、今ある商品を超越することを常に心掛けている。

株式会社宮崎

宮崎 真里子 (Miyazaki Mariko)

1856年（安政3年）に初代が京指物師として独立、現在では皇室の御用も務める京都の家具の老舗(株)宮崎の代表取締役。

昭和17年に、「榊宮崎」と内装業の「宮崎木材工業(株)」の2社を設立し、現在では、家具の製作・販売から神社仏閣、ホテル、ホール、住宅や茶室の木工事などの建築内装工事に取り組み、企業や教育施設はもちろんのこと、宮内庁関係や京都迎賓館でも内装・家具が数多く使用されている。

また、6年前から(株)宮崎の店舗2階に「京指物資料館」を設置し、160年の歴史をはじめ、桐タンスや漆、蒔絵、螺鈿技術を駆使した京指物など、当時の貴重な図案などの資料と共に展示している。

会社紹介

堀氏：創業は江戸中期の1711年、近江今津から京都へ出てきた初代が金箔の仕事を始め、現在、私が10代目の社長を務めている。金箔とは、主役ではなく脇役であり、金箔が付くことにより商品の付加価値を高め、ものづくりの方々のお手伝いをしてきた存在であると考えている。自社に明文化された家訓等はないが、先代から言われてきたこととして、一番に「和」があり、社員や取引先、地域などと争うのではなく、力を合わせることで様々な危機を乗り越えてきた。次に「適正規模の経営」、拡大するよりも時代に合った適正規模の経営を続けること。他には「リスクの分散」や「手回しせねば雨が降る」というようなことを言われてきた。会社と家は表裏一体であり、兄弟がいても会社を継ぐのは1人とする「一人一業」としてきた。また、「社員は家族」という理念のもと、社員を大事にしている。



▲ 堀金箔粉(株) 堀氏

宮崎氏：初代は福井から上京し、御所出入りの京指物師のもとで修業した後に創業。その後、明治維新により激動の時代となったが、京都で開催された内国勸業博覧会に出品した飾り棚を皇室にお買い上げいただいたことが評判になり、京阪神からもお客様が来られるようになった。さらに、創業から80年後、豪華客船の内装を受注したことを機に、船やホテル等の内装業に進出した。戦争中や戦後も様々な苦労があったが、ホテルや神社仏閣、学校などの内装へ仕事を広げることで乗り越え、現在でも、京指物の技術で桐タンスや飾り棚などをつくり続けるとともに、同時期に創業した「宮崎木材工業」では、木材を使った内装材の製造から現場での取り付け工事まで行ってきた。代表的な施工例は、皇居の豊明殿や京都迎賓館の内装工事や家具を納めている。経営理念としては、「先義後利」、「三方よし」、「伝統と革新」、「社員を大切に」があり、一人一人がやりがいと誇りを持って仕事ができる職場づくりを目指している。



▲ (株)宮崎 宮崎氏

新しいことへのチャレンジ、海外展開など

堀氏：金箔だけでなく、金や箔、金属などをキーワードに塗料やインク、様々な会社とのコラボレーションや展示会への出展などに取り組んでいる。環境問題の面からも、箔や転写の技術はこれからの時代に沿っていけないのではないかと思う。また、「インスタ映え」という言葉が流行語になったが、当社には追い風となり、インバウンド向けとして、食品や化粧品などでも用途が広がっており、海外では、日本の和の文化が評価されてきていることから、海外市場での展開にも力を注いでいきたいと考えている。



▲ パネルディスカッション 会場の様子

宮崎氏：最近では京都に来て、和の空間に魅せられた外国人からの注文もあり、今後は、国内だけでなく海外にも本物の和の空間をお届けしていきたい。また、燃えやすいという木材最大の弱点を克服して、付加価値を高めるために不燃木や難燃木の研究や認定の取得に取り組んでいる。木材は伐っても植えればまた資源になるものであり、森を守り、地球を守るためにも、木材の活用を増やす活動などに今後も関わっていきたいと思う。

IT時代における情報の活用等について

堀氏：人とつながり、一緒にものづくりをすることで、加工等の話が進展することが多くある。また、内装の商談は、東京で決まることが多いので、東京にも拠点を置くようにしたことは一定の効果が得られた。人脈のベースは中京納税協会であり、そこで出会った人やそこから派生した人のつながりは大切にしている。

宮崎氏：家具は最近、通販やネットで販売されることが多いが、その真逆を行っており、実際に座ったり、触れてもらってお買い上げいただき、その後も修理などのアフターサービスを行うまちの家具屋を目指している。情報については、京都老舗の会、納税協会をはじめ異業種、同業の会を通じて見本となる経営者に出会えたことが財産になっている。

山下副知事：ITの世界では、グーグルやアマゾンが勝ち組と言われており、こうしたビジネスをやっている人がいることを十分意識する必要がある。人の情報も大事であるが、AIやIoTの世界で何が起きているのかということに注目すると、本当に自分がいるべきところはどこであるのかということが見えてくると思う。100年企業が1000年企業として続いてもらうためにも、京都老舗の会に参加して、新しいことを勉強したり、企業間で交流をしてほしい。



京都府副知事 山下晃正 ▶